

地方が直面する様々な問題に、真っ向から立ち向かおうとする小さな町の挑戦——
5カ年計画の後半期を迎えた「美波ふるさと創造戦略」は、今や地方創生のホットワード「美波町モデル」として全国から注目を集めるようになりました。

ひとりひとりが自分事として、住民総参加で進めることを提唱した「美波ふるさと創造戦略」の取り組み、美波町ならではの地方創生を紹介していきます。

サテライトオフィス企業と移住者が、クリエイティブで地域貢献！

この春、薬王寺門前町にオープンした「at Teramae (アットテラマエ)」では、メンバーである画家の磯中太志さん(山口県出身・日和佐浦在住)が、昨年に引き続き2回目となる美波町での個展を開催。施設オープン当初から念願だったギャラリースペースも完成し、精密な線画から大胆な色使いの抽象画まで幅広い作風の絵画を展示、多くの人を魅了しました。

「at Teramae」は、10月27日の第4回日和佐ハロウィンでもポスター、チラシの制作や、仮装コンテストの記念撮影などを担当。コンテスト参加者の記念写真は同所で無料配布されているそうです。



10/24～10/29に開催された個展「日和佐てん」の様子。施設内では一部作品の常設展示もあります。

IoTで被害を減らそう！今年も避難訓練で実証実験を実施。

11月10日行われた美波町避難訓練。今年も日和佐地区ではサテライトオフィス企業・株式会社 SkeedのIoTの技術を中心に、サイファー・テック株式会社、美波町などが協力した次世代の減災を目指す実証実験が行われました。

この実証実験、平成29年度に総務省IoTサービス創出支援事業に選ばれた「「止まらない通信網」を活用した命をつなぐ減災推進事業」は、災害時に起こるであろう通信障害を見越して整備された独自の通信網を利用して、住民の避難やその後の避難者支援を万全にしようというものです。

小さなタグを持っていれば、通信障害が起こった中でも位置情報が確認できるというこの仕組み。昨年、そして今年の実験結果はデータ化され、町内全域での本格運用を目指すだけでなく、訓練時の住民の避難経路を分析することで、今後の避難計画の改善・立案にも役立てていきます。



(写真左) 平時での活用も今後の課題。“見守り”のアイテムとして使えないかとのことから、今回は小学生にIoTタグを事前配布。避難時の位置情報を計測しました。(写真右) 役場本庁舎内に設置された本部の様子。

